

労働者・国民に痛みを押しつける(衆)比例削減、なんとしても阻止を！

11・11院内集会・議員要請行動で意思統一

■**ねらいは「二大政党以外に政党選択の余地をつくらないこと」**
集会には五〇人が参加。主催者を代表して民医連長瀬事務局長が「米の中間選挙で共和党が圧勝したが二大政党制のもとで、ブッシュの悪政など国民は共和党に厳しい批判を持ちながらも選択の余地がないと指摘、比例定数削減阻止に向け全力を」とあいさつしました。また日本共産党の井上参議院国対委員長が挨拶、国民が二大政党を厳しく批判しているとき国民



の政党選択を二大政党に絞り込むのが比例定数削減」と厳しく批判。
■**署名提出、一一〇議員に要請**
いち早く署名に取り組んでいる全学連と埼玉憲法会議が第一次分として計六一五筆を井上議員に託しました。討論後、全商連の今井さんが閉会あいさつ、直ちに議員要請行動に移り一一〇人の民主党議員に要請。ある部屋では話し込むなか「半数以上の議員が今の小選挙区制はおかしいと思っっている。私も中選挙区制にすべきだと思っ」と議員が答えています。

■「一人が活発に発言！」

「三〇日に署名推進決起集会を開催、全力をあげる」(東京憲法会議片桐さん)「地域主権改革が進行するなか、悪政推進のフリーハンドを与えるな」(国公労連門田さん)「ムダ削減論をどう崩すか!議員の質と数の問題の混同を整理すること」(自由法曹団小林さん)。「民意が反映される政治をめざす。議員が大学に足を運び、大学には投票箱が必要」(全学連福田さん)「関西広域連合の議員数は人口一〇〇万人に一人だ。定数削減しても政治は良くなる」(自治労連山口さん)「年内に五万の署名を集める」(埼玉憲法会議渡辺さん)「被選挙権に問題あり。公務員は職を賭して立候補しなければならぬ」(全建労恵藤さん)「青年の政治不信に共感しながら運動を広げる」(民青林さん)「TPP反対など、民意を反映する選挙制度こそ重要」(農民連上山さん)「ある村の新婦人班は定数削減の署名が町内に回るなか、これに反撃したいと勉強会を計画」(新婦人西川さん)そして自由法曹団の小部さんが発言

(文責・編集部)